

## コミュニケーション分析カテゴリーシステム

# 授業を分析してみよう！

### 分析方法

Wragg (1970) のコミュニケーション分析カテゴリーシステム (Interactional Analysis Category System) という手法です。

### カテゴリーの種類

授業全体の発話を母国語の場合、(1) ~ (10) と外国語の場合 (11) ~ (20) に分け、あわせて 20 種類のカテゴリーに分類する。

### Wragg (1970) の発言カテゴリー

		カテゴリー分類		カテゴリーの説明
		日本語	英語	
教師の発言	反応	(1)	(11)	感情の受容 賞賛・勇気づけ 発想の受容 発問
		(2)	(12)	
		(3)	(13)	
		(4)	(14)	
	自発	(5)	(15)	講義 指示 批判・修正
		(6)	(16)	
		(7)	(17)	
生徒の発言	反応	(8)	(18)	応答 生徒の発想
	自発	(9)	(19)	
		(10)	(20)	沈黙または混乱

### 手順

このカテゴリー表をもとに、実際の授業、または録画した授業を見ながら 3 秒ごとにその時々の発言が 20 種類のカテゴリーのどれに属するものかをコード化していく。( / が 3 秒のタイミング)

実習生： So, let's talk with us (16) / about what your favorite sports is (16). / Any volunteer (14)? / (20) / (20) / (20) / (20) / じゃあ当てますよ(6)。 / う〜〜んと、(10) / じゃあ Ms. Nakamura(14). / (20) / (20) / (20) / (20) / (20) / (20) / Which teacher do you like (14)? / (20) / (20) / (20) / (20) / (20) / (20) どちらの先生と話したい(4) ? /

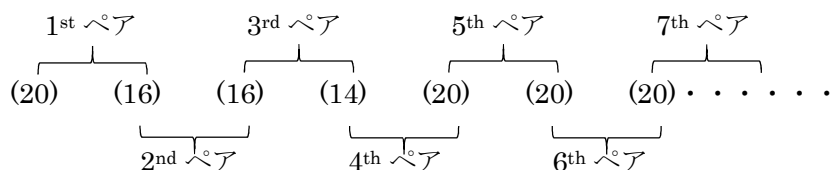
生徒： Mr. Sato (18). /

実習生： OK (11). / Are you ready (14)? / Three, two, one, go (16)! /

記録したコードを 1 列に並べる。上記の例であれば以下のような形になる。

(16) (16) (14) (20) (20) (20) (6) (10) (14) (20) (20) (20) (20) (20) (20) (14) (20) (20) (20) (20) (20) (20) (4) (18) (11) (14) (16)

次に、以下のようにコードを前後の2つずつペアを作っていく。



上記の例であれば、以下の26つペアが作られることになる。

(20) - (16), (16) - (16), (14) - (20), (20) - (20), (20) - (6), (6) - (10), (10) - (14), (14) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (14), (14) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (20), (20) - (4), (4) - (18), (18) - (11), (11) - (14), (14) - (16), (16) - (20),

これらペアの頻度を、次のTable 2に示すような、20×20のマトリックスの適切な箇所に記入する。

### 20×20マトリックスの配置

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	1-11	1-12	1-13	1-14	1-15	1-16	1-17	1-18	1-19	1-20
2	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	2-11	2-12	2-13	2-14	2-15	2-16	2-17	2-18	2-19	2-20
3	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	3-9	3-10	3-11	3-12	3-13	3-14	3-15	3-16	3-17	3-18	3-19	3-20
4	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	4-10	4-11	4-12	4-13	4-14	4-15	4-16	4-17	4-18	4-19	4-20
5	5-1	5-2	5-3	5-4	5-5	5-6	5-7	5-8	5-9	5-10	5-11	5-12	5-13	5-14	5-15	5-16	5-17	5-18	5-19	5-20
6	6-1	6-2	6-3	6-4	6-5	6-6	6-7	6-8	6-9	6-10	6-11	6-12	6-13	6-14	6-15	6-16	6-17	6-18	6-19	6-20
7	7-1	7-2	7-3	7-4	7-5	7-6	7-7	7-8	7-9	7-10	7-11	7-12	7-13	7-14	7-15	7-16	7-17	7-18	7-19	7-20
8	8-1	8-2	8-3	8-4	8-5	8-6	8-7	8-8	8-9	8-10	8-11	8-12	8-13	8-14	8-15	8-16	8-17	8-18	8-19	8-20
9	9-1	9-2	9-3	9-4	9-5	9-6	9-7	9-8	9-9	9-10	9-11	9-12	9-13	9-14	9-15	9-16	9-17	9-18	9-19	9-20
10	10-1	10-2	10-3	10-4	10-5	10-6	10-7	10-8	10-9	10-10	10-11	10-12	10-13	10-14	10-15	10-16	10-17	10-18	10-19	10-20
11	11-1	11-2	11-3	11-4	11-5	11-6	11-7	11-8	11-9	11-10	11-11	11-12	11-13	11-14	11-15	11-16	11-17	11-18	11-19	11-20
12	12-1	12-2	12-3	12-4	12-5	12-6	12-7	12-8	12-9	12-10	12-11	12-12	12-13	12-14	12-15	12-16	12-17	12-18	12-19	12-20
13	13-1	13-2	13-3	13-4	13-5	13-6	13-7	13-8	13-9	13-10	13-11	13-12	13-13	13-14	13-15	13-16	13-17	13-18	13-19	13-20
14	14-1	14-2	14-3	14-4	14-5	14-6	14-7	14-8	14-9	14-10	14-11	14-12	14-13	14-14	14-15	14-16	14-17	14-18	14-19	14-20
15	15-1	15-2	15-3	15-4	15-5	15-6	15-7	15-8	15-9	15-10	15-11	15-12	15-13	15-14	15-15	15-16	15-17	15-18	15-19	15-20
16	16-1	16-2	16-3	16-4	16-5	16-6	16-7	16-8	16-9	16-10	16-11	16-12	16-13	16-14	16-15	16-16	16-17	16-18	16-19	16-20
17	17-1	17-2	17-3	17-4	17-5	17-6	17-7	17-8	17-9	17-10	17-11	17-12	17-13	17-14	17-15	17-16	17-17	17-18	17-19	17-20
18	18-1	18-2	18-3	18-4	18-5	18-6	18-7	18-8	18-9	18-10	18-11	18-12	18-13	18-14	18-15	18-16	18-17	18-18	18-19	18-20
19	19-1	19-2	19-3	19-4	19-5	19-6	19-7	19-8	19-9	19-10	19-11	19-12	19-13	19-14	19-15	19-16	19-17	19-18	19-19	19-20
20	20-1	20-2	20-3	20-4	20-5	20-6	20-7	20-8	20-9	20-10	20-11	20-12	20-13	20-14	20-15	20-16	20-17	20-18	20-19	20-20

このマトリックスから、視覚的・直観的に授業の特性を洗い出すことが可能。例えば、教師による発問と、それに対する生徒の応答が短いスパンで繰り返されるドリル形式の授業の場合、授業のインタラ

クシヨンのほとんどは、教師が生徒に発問し、生徒がそれに応答するセルである（4-8）頻度と、生徒の応答に対して、即座に教師が次の発問を投げかけるセルである（8-4）の頻度、さらには教師が3秒以上続けて発問するセルである、（4-4）と、3秒以上続けて生徒が応答しているセルである（8-8）の4つのセルの頻度が高くなる。

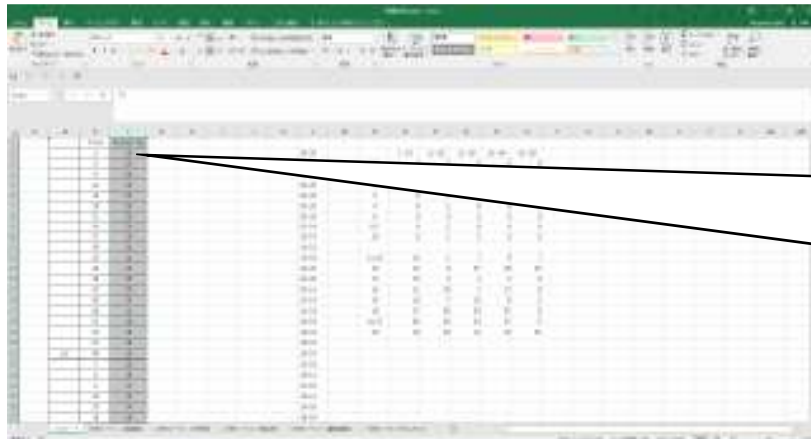
さらに、以下のような数値を算出することによって、さらに客観的に、授業の特性を捉えることができる。それぞれの数値の平均値もあるので、授業の傾向を、平均的な数値と比較しながら検討することが可能。

### 分析項目

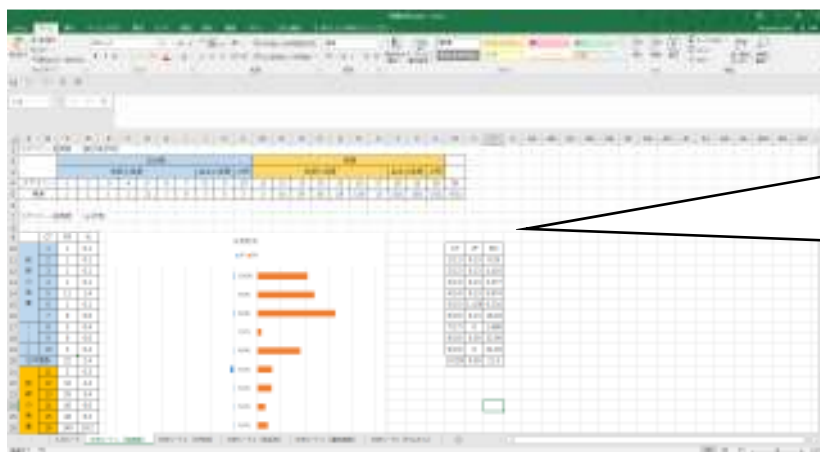
分析項目	記号	算出方法	平均
教師の発話率	TT	カテゴリー(1)～(7)の合計×100/すべての発話量の合計	68%
生徒の発話率	PT	カテゴリー(8)～(9)の合計×100/すべての発話量の合計	20%
沈黙・混乱率	SC	カテゴリー(10)の頻度×100/すべての発話量の合計	11%
教師応答率：教師が生徒の発想や感情に反応する傾向	TRR	カテゴリー(1)～(3)の合計×100/カテゴリー(1)+(2)+(3)+(6)+(7)	42%
教師発問率：教師が授業をコントロールする際に質問を用いる傾向	TQR	カテゴリー(4)×100/カテゴリー(4)+(5)	26%
生徒自発的発言率：単純な応答ではなく生徒が自己の発想に基づいて発言する傾向	PIR	カテゴリー(9)×100/カテゴリー(8)+(9)	34%
教師即時的間接発言率：生徒の発言の直後に教師が生徒を認めたり、その発想を授業にいかそうとする傾向	TRR89	(8)と(9)の行のカテゴリー(1)～(3)の合計×100/(8)と(9)の行のカテゴリー(1)+(2)+(3)+(6)+(7)	60%
教師即時的発問率：生徒の発言に質問の形で反応する傾向	TQR89	(8)と(9)の行のカテゴリー(4)×100/(8)と(9)の行のカテゴリー(4)+(5)	40%
学習内容率：教師が主導して、学習内容を扱う割合	CCR	行(4)と(5)、列(4)と(5)に含まれるセルの合計×100/すべての発話の合計	55%
発言持続率：教師や生徒の発話が、3秒以上持続する傾向	SSR	セル(1-1)+(2-2)+(3-3)+(4-4)+(5-5)+(6-6)+(7-7)+(8-8)+(9-9)+(10-10)の合計/すべての発話の合計	50%
生徒発言持続率：生徒の発話が3秒以上持続する傾向	PSSR	セル(8-8)+(9-9)+(10-10)の合計/すべて生徒の発話の合計	35% ～ 40%

### 授業分析エクセルシート

と、本来はやるのですが、これだと大変なので入力するだけで、 $20 \times 20$ のマトリックス表も、いろいろな数値も自動で計算してくれるエクセルのシートを作成しました。

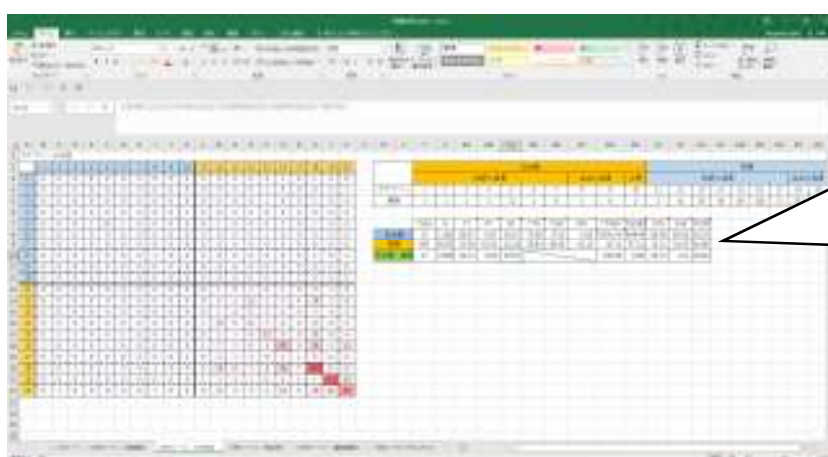


自分の授業のビデオを見ながら、3秒ごとのタイミングで、何が行われているのか、適切な番号を入力していくと・・・



- ・日本語と英語の割合
- ・教師と生徒の発話の割合
- ・教師と生徒の発話の中身

を提示



$20 \times 20$ のマトリックス

TTRやTQRなどもエクセルが計算してくれる

## 参考文献

- Flanders, Ned. A. (1970). *Analyzing Teaching Behavior*; Massachusetts: Addison-Wesley.
- Wragg, E.C. (1970). Interactional Analysis in the Foreign Language Classroom. *Modern Language Journal* 54 (2), 116-120.